

学校経営のポイント

“日本学校教育学会(JASE)”の仙台大会

若井 彌一

夏休みを迎えた。といっても、夏休みは、児童・生徒にとっては実感があっても、教職員にとっては実感を持ちにくいほど、なにかと多忙な日々かと思われる。

“現場に近い学会”への参加を

多忙感に支配されてしまうと、その日1日をなんとかやりくりすることで1日が終わってしまうことになりやすい。筆者自身、そのような心境で日々を過ごしているのではあるが、今回は、研究大会への参加を呼びかけることにしたい。

ひとくちに学会といっても、その内容はじつにさまざまであることは、断るまでもない。参加を呼びかけたいのは、日本学校教育学会（Japan Association of School Education：略称 JASE ジャセ）の研究大会である。

この学会は、「学校教育に関する総合的で、大学に籍を置かない教育実践者や関係者も大いに活躍できる全国規模の研究組織が設立されるべきではないか」との思いを抱いた人々によって、昭和 60(1985)年 9月 15日に創設された。

今回の研究大会（第 23 回大会）は、仙台白百合女子大学を会場として、8月 2～3日の両日にわたって開催される（大会準備委員長＝牛渡淳・仙台白百合女子大学教授）。

この研究大会では、例年、小・中・高等学校、特別支援学校等で活躍されている先生方により、日常的に取組みを進めている実践を踏まえた研究成果が報告されており、日本の学校教育の先端的課題が何であるのか、あるいは、日本の学校教育改革はどこ

へ進もうとしているのか等を知り、自らも実践的な研究を進め、より高度な実力を備えた教職員となっていくうえで、きわめて有益である。

会員でなくても、臨時会員として研究大会に参加できるし、また、気が向けば会員資格を得ることもできる。まずは、一回、研究大会に参加してみることをおすすめしたい。

今回の研究大会“2つの企画”

今回は、大会 1 日目（8月 2日）の午後 3時～5時半に、公開シンポジウム「教員免許更新制度を考える 教員の資質能力の向上に役立つのか」、また、2 日目（8月 3日）の午後 1時半～4時に課題研究（公開）「新しい学校づくりの課題と方法 戦後日本の教育実践に学ぶ」が、それぞれ予定されている。登壇されるメンバーは、教育研究や行政、実践の場において第一線で活躍されている方々である。

国・公・私立の別を問わず、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない」（教育基本法第 9 条第 1 項）と、不断の研究と修養が求められている。この夏に、新たな研修の場を知っていただく一助になれば、と願うものである。

研究大会についての問い合わせ先

〒981-3107 仙台市泉区本田町 6 番 1 号

仙台白百合女子大学

事務局長＝朝倉克彦 / 事務局次長＝大迫章史

TEL 022-374-5203（大迫）

（わかい・やいち＝上越教育大学大学院教授・附属図書館長）

●好評発売中！●4月から実施「指導改善研修」、免許更新制導入等へ万全の対応を！ 教育開発研究所

『**教員の養成・免許・採用・研修**』若井彌一編著 A5判 370頁 定価 3570円

■最新刊！ 坂田仰／河内祥子／黒川雅子【共著】 B5判 224頁・定価 3,150円 教育開発研究所

主要教育法規の大改正に完全対応！ 確実に教育法規が学べる必携の 1冊

『**図解・表解 教育法規**』